

令和4年度

「『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業」実施報告書

(この事業は、令和4年度都市農業機能発揮支援事業(農林水産省)を利用して実施しています。)



いくのコーライブズパーク（大阪市生野区） 小学校跡地活用の多文化共生交流施設に菜園を整備

< 報告内容 >

1. 令和4年度実施概況	2
2. 過去10年間の事業推移	3
3. 派遣箇所の詳細	4
(1) 分野別派遣箇所一覧	4
(2) 派遣事例	6

1. 令和4年度実施概況

○全国の農家、都市住民、企業、NPO法人等の依頼に応じ、都市農業の多様な機能を活用した取組みを支援するため、テーマに応じた専門家をアドバイザーとして派遣した。
(コロナ感染予防等で必要な場合はオンラインでの派遣実施も可能とした。)

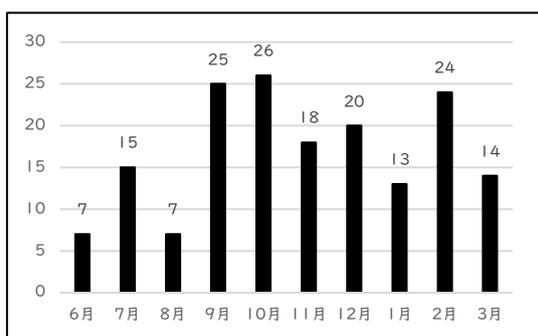
○令和4年度もコロナの影響で、多数が集まる講演会、学校の授業(食育)、高齢者施設や障害者施設での活動、農業祭や食に関わるイベントが抑制されたが、それにも拘らず、年間で178箇所から専門家派遣の相談があり、169箇所に専門家を派遣することができた。本事業の目的である都市農業機能への国民の理解が大幅に拡大、深化していることが示された。

- ・派遣手続き終了箇所数 178 箇所
- ・キャンセル箇所数 9 箇所 (内、コロナウイルスによるもの 2 箇所)
- ・派遣実施箇所数 169 箇所 (内、オンライン 24箇所)
- ・派遣アドバイザー数 181 名
- ・参加者数 3,989 名 (内、農業者 502名)

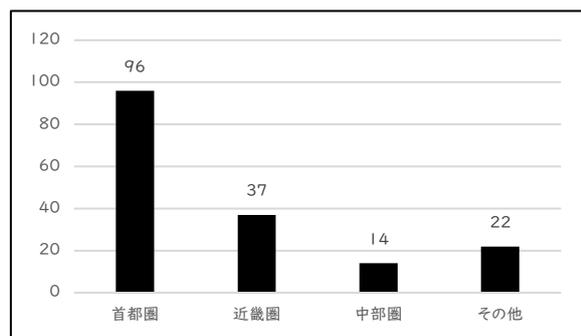
①期別派遣箇所数

	1期	2期	3期	合計
	6月～9月	10月～12月	1月～3月	
計画	70	90	40	200
R01	74	83	38	195
R02	46	75	55	176
R03	61	64	58	183
R04	54	64	51	169

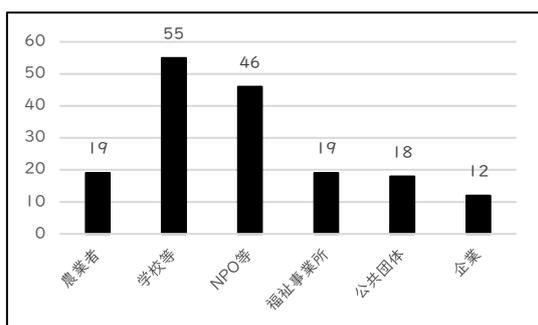
②月別箇所数



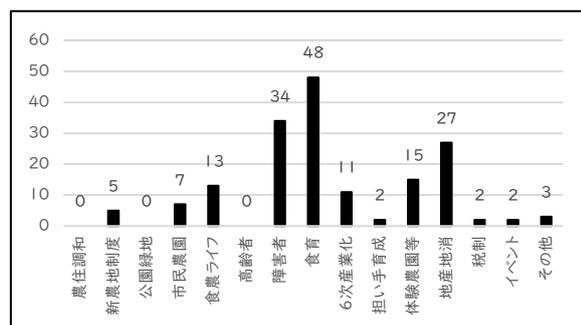
③圏域別箇所数



④依頼団体別箇所数

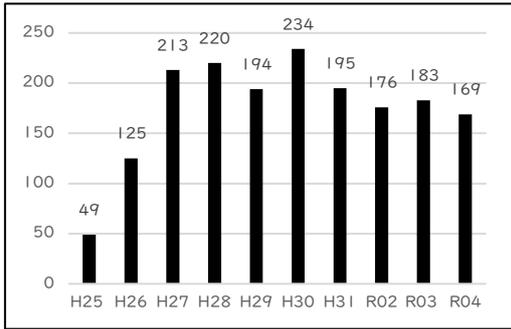


⑤テーマ別箇所数

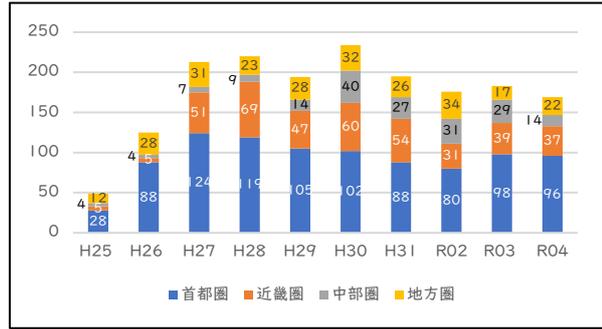


2. 過去10年間の事業推移 (H25～R04累計)

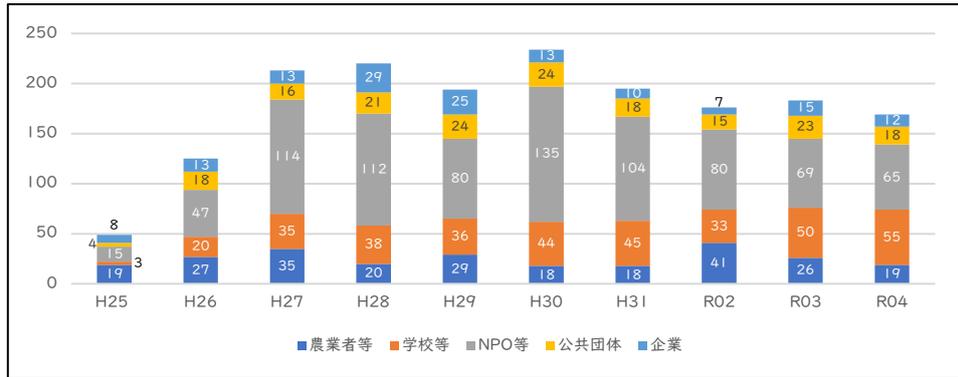
①年度別箇所数



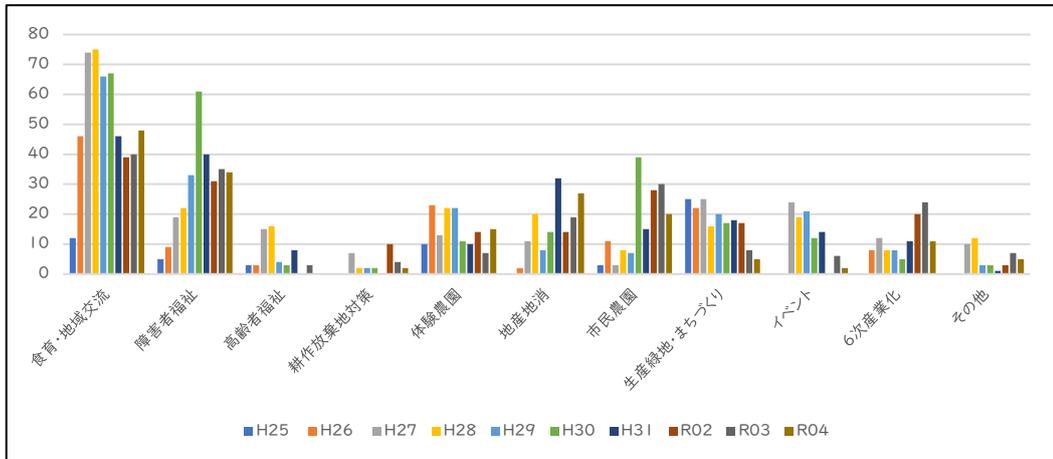
②年度別圏域別箇所数



③年度別依頼者別箇所数

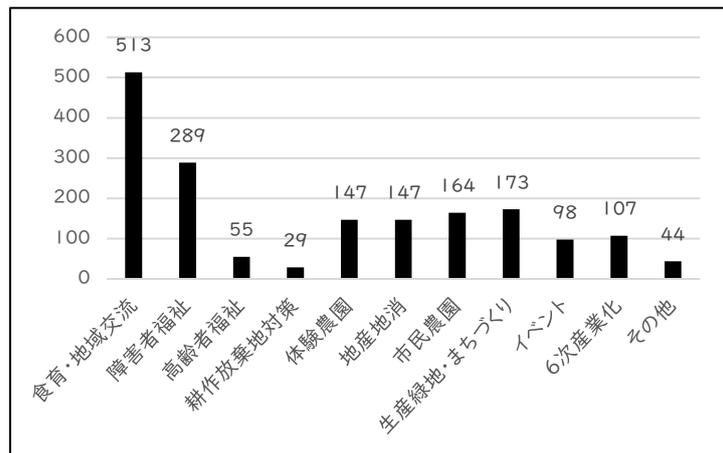


④年度別テーマ別箇所数



⑤テーマ別箇所数累計

(H25～R04 累計: 1,766 箇所)



3. 派遣箇所の詳細

(1) 分野別派遣箇所一覧

大分類	小分類	派遣先
(1)まちづくり 7件	1) 農住調和のまちづくり	
	2) 新しい都市農地制度 [生産緑地等の都市農地保全制度、農地法、都市農地貸借法]	甲府市農政課(山梨県甲府市)、兵庫県農業経営課(神戸市)、大阪都市農業研究会(大阪市)」、(株)エマリコくにたち(東京都国立市)
	3) 公園と緑	
(2)市民利用 20件	4) 市民農園 [市民農園制度の学習、市民農園利用者へのオリエンテーション、有機農法導入]	静岡県食と農の振興課(静岡市)、戸田市経済戦略室(埼玉県戸田市)、千葉県安全農業推進課(千葉市)、新居浜市自然農園を育てる会(愛媛県新居浜市)、NPO 法人百生一輝(兵庫県川西市)、THE LEAN LAUNCH PAD 京都の事業創造支援プログラム(京都市)
	5) コミュニティ菜園・食農ライフ [農地等の未利用地を利用した菜園づくり、農作業を契機にした住宅団地等でのコミュニティ活動、農地のない大都市での農的空間確保の取組]	アローレハ王子(東京都八王子市)、ZEN 呼吸法ジネン塾(長野県上田市)、東邦レオ株式会社(大阪市)、江戸川区水とみどりの課(東京都江戸川区)、つるがや元気会(仙台市)、NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会(東京都墨田区)、中軽井沢みらい畑(長野県軽井沢町)、都市住民と農業をつなげるプロジェクト準備会(東京都江東区)、株式会社野上緑化(富山県魚津市)
(3)教育・福祉等 85件	6) 高齢者・生きがいづくり	
	7) 障害者福祉等 [特別支援学校・特別支援学級で農作業の体験や農業の学習、就労支援事業所等での農福連携円滑化・収益増、補助事業導入等]	① 特別支援学校・特別支援学級 八王子市元八王子中学校(東京都八王子市)、八王子市松ヶ谷中学校(東京都八王子市)、都立あきるの学園(東京都あきる野市)、戸田市戸田第一小学校まめの木学級(埼玉県戸田市) ② 福祉事業所、農福連携 楽しい場所づくり株式会社(仮)(愛知県日進市)、NPO 法人蓬菜の家(滋賀県大津市)、ひら自然菜園(滋賀県大津市)、社会福祉法人みなと福祉会(滋賀県栗東市)、NPO 法人兵庫セルフセンター(神戸市)、NPO 法人フェルマータ(大阪府高槻市)、NPO 法人百生一輝(兵庫県川西市)、NPO 法人みやぎセルフ協働受注センター(仙台市)、NPO 法人大町市社会福祉協議会(長野県大町市)、一般社団法人徳広エネルギー工房(長野県大町市)、NPO 法人協働学舎(長野県小谷村)、Motherness Publishing(東京都中央区)、(有)ポニーの里ファーム(奈良県高取町)、新潟医療生活協同組合(新潟市)、湖南省農業振興協議会(滋賀県湖南省)
	8) 学校教育等の食育 [総合学習、社会科等で江戸]	① 東京都内小学校の授業 滝野川第三小学校(東京都北区)、西伊興小

	<p>東京野菜学習、いのちと自然、農業技術指導、食の大切さ、幼児が食農に親しむ]</p>	<p>学校（東京都足立区）、光華小学校（東京都昭島市）、中神小学校（東京都昭島市）、東京都市大学付属小学校（東京都世田谷区）、香取小学校（東京都江東区）、保木間小学校（東京都足立区）、拝島第二小学校（東京都昭島市）、西新宿小学校（東京都新宿区）、みなみ野小学校（東京都八王子市）、第二亀戸小学校（東京都江東区）、第一亀戸小学校（東京都江東区）、松ノ木小学校（東京都杉並区）、水神小学校（東京都江東区）、梅田小学校（東京都大田区）、第二瑞光小学校（東京都荒川区）</p> <p>② 東京都内小学校を除く学校での授業 大和田小学校運営協議会（東京都八王子市）、東京女子学院高等学校（東京都練馬区）、八王子東高等学校（東京都八王子市）、泉川学校運営協議会（愛媛県新居浜市）</p> <p>③ 保育園等 すみれ保育園（愛媛県新居浜市）、マザーシップ船場保育園（大阪市）、蓮美幼児学園うえしおキンダースクール（大阪市）</p> <p>④ 自治体や民間の社会教育 ぼこあぼこサイエンス倶楽部（東京都西東京市）、男の子育てサークル DADDY（愛媛県新居浜市）、大生院小学校畑の先生（愛媛県新居浜市）、高田馬場シニア活動館（東京都新宿区）、THE LEAN LAUNCH PAD 京都の事業創造支援プログラム（京都市）、一般社団法人小金井市観光まちおこし協会（東京都小金井市）、松藤俊二氏（福岡県柳川市）</p>
<p>(4)都市農業 50件</p>	<p>9) 6次産業化 [農業者やそれを支援する自治体、NPO 法人、協議会等によるブランド化、加工・販売、販路拡大、HACCP 学習、マルシェ・直売所等を通じた収益増強化]</p> <p>10) 担い手育成や農地確保 [市民参加による遊休地対策、JA の取組支援]</p> <p>11) 入園方式等の農業経営 [入園方式紹介、市民参加型農業、企業の農業参入、観光農園の整備、CSA、補助金導入]</p>	<p>① 自治体、NPO 法人、協議会等 阿見町農業振興課（茨城県阿見町）、BE CAREER（東京都江東区）、福知山市農林業振興課（京都府福知山市）、大阪市 6 次産業化交流協会（大阪市）、亀岡市農林振興課（京都府亀岡市）、富士見市農家組合長連絡協議会（埼玉県富士見市）</p> <p>② 農業者等 池姫竹炭組合・炭 Tracce（京都府舞鶴市）</p> <p>立田・八開の村おこし隊（愛知県愛西市）、JA マインズ（東京都府中市）</p> <p>バンブービレッジファーム（東京都町田市）、河原農園（東京都町田市）、農業者・宇佐美氏（名古屋市）、農業者・松井氏（東京都練馬区）、ZEN 呼吸法ジネン塾（長野県上田市）、（岐阜県白川町）、東山みんなたんぼプロジェクト（愛知県長久手市）、瑞浪市農林課（岐阜県瑞浪市）、一般社団法人 TUKURU（東京都日野市）、株式会社オーガニックワン（大阪府堺市）</p>

	12) 地産地消 [セミナー、ワークショップ、イベントを開催(企業、大学、市民グループ)、新商品開発、伝統野菜、研究の素材等]	桜美林大学尾川ゼミ・サクペジプロジェクト(東京都町田市)、NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会(東京都墨田区)、横浜市農政推進課(横浜市)、高田馬場シニア館(東京都新宿区)、株式会社ノースオブジェクト(大阪府大東市)、NPO 法人江戸ソバリエ協会(東京都千代田区)、飯坂食糧(大阪府和泉市)、mikibar(東京都小金井市)、東京学芸大学環境教育研究センター(東京都小金井市)、東京家政大学(東京都小金井市)、犬山市産業課(愛知県犬山市)、株式会社エマリコくにとち(東京都国立市)、一般社団法人小金井市観光まちおこし協会(東京都小金井市)、北区史を考える会(東京都北区)、法政大学現代福祉学部佐野ゼミ(東京都八王子市)、大阪ぐりぐりマルシェ実行委員会(大阪市)、NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと(大阪市)、FOOD PUNK 株式会社(大阪府吹田市)、株式会社まなびや PLUS(大阪市)、東京都青果物商業協同組合(東京都千代田区)
(5)税制その他 8件	13) 税制 [税制の活用]	バンブービレッジファーム(東京都町田市)、草加市蔬菜研究部会(埼玉県草加市)
	14) 農業祭等のイベント [市民グループの農業イベント開催]	Irodorilabo.(大阪市)
	15) その他 [農村でのコミュニティ、販路開拓]	富澤ファーム(東京都三鷹市)、バンブービレッジファーム(東京都町田市)

(2) 派遣事例 ※今年度は、分野1)、3)及び6)については派遣取扱いなし。

各事例の表上の文は、派遣依頼団体の概要及び派遣依頼内容、およびアドバイザー選定の経緯等について、当センターにて記載したものである。

また、表は、主として派遣依頼団体より提出された報告書を基に、派遣事例を整理したものである。(表中アドバイザーの氏名は敬称略)

事例一覧		事例一覧	
番号	派遣依頼団体(派遣場所)	番号	派遣依頼団体(派遣場所)
1	阿見町農業振興課(茨城県阿見町)	13	湖南省農業振興協議会(滋賀県湖南市)
2	大阪都市農業研究会(大阪市)	14	松ノ木小学校(東京都杉並区)
3	(株)エマリコくにとち(東京都国立市)	15	東京女子学院高等学校(東京都練馬区)
4	新居浜市自然農園を育てる会(愛媛県新居浜市)	16	一般社団法人小金井市観光まちおこし協会(東京都小金井市)
5	NPO法人百生一輝(兵庫県川西市)	17	亀岡市農林振興課(京都府亀岡市)
6	アローレ八王子(東京都八王子市)	18	河原農園(東京都町田市)
7	東邦レオ株式会社(大阪市)	19	農業者・松井氏(東京都練馬区)
8	株式会社野上緑化(富山県魚津市)	20	ZEN呼吸法ジネン塾(長野県上田市)
9	戸田市戸田第一小学校まめの木学級(埼玉県戸田市)	21	一般社団法人TUKURU(東京都日野市)
10	ひら自然菜園(滋賀県大津市)	22	NPO法人IKUNO・多文化ふらっと(大阪市)
11	(有)ポニーの里ファーム(奈良県高取町)	23	株式会社まなびやPLUS(大阪市)
12	新潟医療生活協同組合(新潟市)	24	Irodorilabo(大阪市)

2) 新しい都市農地制度

NO.1【大阪都市農業研究会】 大阪市

大阪都市農業研究会は地域の農業者をはじめ、大学（農業経営等）OB、農民連、食農に関係するさまざまな団体等で活動するメンバーで構成されている会。

2014年に、これまでの大阪での運動の蓄積を踏まえつつ、「都市農業をめぐる新しい情勢に対応した研究・調査・政策提言、広報活動を行う」ために設立され、定期的に勉強会等を開催している。

今回は専門家の派遣を得て近年の都市農地に関わる法制度について意見交換を行うこととした。

実施時期	令和4年12月	
依頼団体	大阪都市農業研究会	
専門家 (所属・氏名)	一般財団法人都市農地活用支援センター・佐藤啓二	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催 ・オンラインによるビデオ開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	・「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」を学ぼう
	アドバイスの内容	・会場、リモート参加を含めて農業関係者13名が参加しました。 ・都市農地の貸借の円滑化に関する法律の概要から始まり、都市農地の新たな貸借制度と税制改正を東京都などの事例を交えて教えていただきました。
	アドバイスの効果	・制度の改正を知らない生産者、農業関係者に向けて勉強したことを周知していきたいと思います。
	残る課題	・実際に事例のようなことが出来るのか、興味をもった生産者に対して詳細な説明をするにはどうすればよいのかが課題として残る。
	今後の方針	・今後は改正などがあった場合は、更に勉強し都市農業の発展に貢献できるようにしていきたいと思います。



NO.2【株式会社エマリコくにたち】 東京都国立市

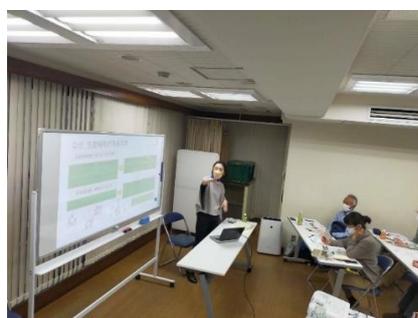
株式会社エマリコくにたちは、地域農家の地場野菜を自社で集荷・買取する方式により国立、国分寺等で3店舗の直売所を経営している「東京農業活性化ベンチャー」。

合わせて飲食業（カジュアルバル「くにたち村酒場」）やスーパー等への卸売り事業を行うと共に消費者、農家向けサービスとして援農仲介プログラム「イートローカル探検隊」などを実施している（20数名）。

今回は、日頃協力してもらっている農家や市民等に集まってもらい、法律の専門家から生産緑地法や都市農地に

関する法制度を勉強することとなった。

実施時期	令和5年2月	
依頼団体	株式会社エマリコくにたち	
専門家 (所属・氏名)	ゆずの木法律事務所・岩崎紗矢佳	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載するこ と。)	テーマ	(内容) 生産緑地とは市街化区域の農地を守っていく上で大切な制度であり、東京都では90%以上の農地が生産緑地に指定されている。 都市農業を支える上では重要な制度であるが、開始されたのは1992年と長い年月を経て理解が進みようやく価値が認められた。
	アドバイスの内容	(効果) 農業、農地という漠然としたもので捉えるのではなく、資産価値の高い都市農地というものの理解が深まった。 課題を抱える都市農業の中、いかに試行錯誤の上農業を継続しているかを講師の方の例を通じて学ぶことができた。 生産緑地制度を理解したことで、さらに都市農業を応援する気持ちが高まったことが最大の効果といえる。
	アドバイスの効果	(課題) 法に関する難しい制度でもあり、よりよく理解するにはさらに資料や関連書籍に目を通すなどの個々のアプローチが必要。
	残る課題	(方針) 定期的に勉強会などを開き、消費者へ理解を広めたい。
	今後の方針	



<p>農地を知ろう</p> <p>Question①</p> <p>農地とは何でしょうか？</p>	<p>エリア分けを知ろう！</p> <p>Question②</p> <p>「市街化区域」と「市街化調整区域」の違いは何でしょうか</p>	<p>国立市周辺の農地の値段を知ろう！</p> <p>Question③</p> <p>国立市周辺(市街化区域内)の農地は、平均すると、1反につき、いくらぐらいするのでしょうか</p> <p>①150万円～250万円くらい ②1500万円～2500万円くらい ③1億5000万円～2億5000万円くらい</p>
---	---	---

4) 市民農園

NO.3【新居浜市自然農園を育てる会】愛媛県新居浜市

新居浜市自然農園は耕作放棄地等を利用した市開設の市民農園で、特定農地貸付法を活用。市内に33農園(436区画うち362区画使用)。

農薬や化学肥料を使わない野菜作りを目指し「新居浜自然農園を育てる会」が主体となりその運営を行って

る。今回は、菌ちゃん農法で有名な「農業法人株式会社菌ちゃんふぁーむ」理事長の吉田俊道氏をアドバイザーとして招き、「東校前」農園での現地指導と、総合福祉センターでの会員等を対象とした講演を行ってもらった。

実施時期	令和4年9月	
依頼団体	新居浜市自然農園を育てる会	
専門家 (所属・氏名)	農業法人株式会社菌ちゃんふぁーむ・吉田俊道	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等 ・その他(視察)
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	今回、視察としては、「東校前」農園を見ていただいた。 講演は、前回より詳しくお話いただいた。 菌のことやコロナの事(避けられないので免疫力を上げるしかない)。畑も味噌(発酵)とクソ(腐敗)の状態がある。味噌にするには、漬物にする。良い畑にするためにどうするか。①空気を入れる。約10cmの深さまでは、空気が入る。それ以上になると有機物が腐る。②菌を活かす。EM菌や糸状菌。③水を切る。畝に積み重ねる草の厚みを入れて60cmにする。そしてマルチをかける。④溝を掘る。溝がないと雨が降った時に水がたまり、土の中は、ずっと雨が降っている状態になる。そうすると菌が死ぬ。⑤木を並べて畝をつくる。まず、平らな畑に、木を列に並べる。並行に溝を掘り、掘った土を木の両側に並べる。 同じ人が同じ畑で野菜を作っても、虫の来るところと来ないところがある。虫が来た農家では、完熟していない堆肥を入れていることが多い。とにかく、土を腐敗にもっていかないことが大切。
	残る課題 今後の方針	野菜作りは、まだまだ分からないことが多くあるので、毎年進化している吉田俊道さんに次年度も教えていただきたい。



(出典:吉田氏の講義資料)

NO.4【NPO 法人百生一輝】兵庫県川西市

兵庫県川西市の矢問農園は面積約1.7ha、440区画のJAが開設した日本でも最大級の市民農園である。しかし、市民のニーズが変化する中、多くの空き区画が生じ、その管理等を農福連携事業としてNPO法人百生一輝(就労継続支援B型事業支所)が一部受託している。

農地貸借期限が迫っており、農福連携だけでなく、今後の農園継続やリニューアル等について、JAや市と共に専門家のアドバイスを受け意見交換を行った。

実施時期	令和4年7月～10月	
依頼団体	NPO 法人百生一輝	
専門家 (所属・氏名)	NPO 法人 HUB's・林正剛 一般財団法人都市農地活用支援センター・佐藤啓二	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(会議と現地視察)
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	アドバイスの 内容	<p>■JAでの聞き取り内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地は市街化調整区域 ・日常の管理は管理組合が行う ・管理組合として5年後は百生一輝にしてみたらいいと思っている課題 ・空区画を埋めたい(外部要因の変化についていけない) ・現状の管理をいかに請け負うか ・子どもを連れていきにくい(周囲に気を遣う) <p>今後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンポストをどうするか→廃止してもいいのでは? ・全体の区画を300、残りの区画は使い方を变える(※円形農園) <p>※貸農園の広報、子どもたちが遊びに来る</p> <p>↓</p> <p>農水省の地域共生推進事業</p> <p>※市役所を巻き込んでいく必要はある、来年度を見越して動いていく</p> <p>↓</p> <p>申請に必要なもの:協議会の立ち上げ(事業報告書)、申請関係の書類、令和5年度の事業計画・収支予算書、協議会の規約</p> <p>※資金の使い道、算出根拠が大切</p> <p>→資金を用いて事務局を設けることも可能</p> <p>現在の契約は特定農地貸付法 (貸せるのは1000㎡までのため貸区画の広さを变えることはできる)</p> <p>事例:アグリパーク伊勢原(市の指定管理者を募集した)</p> <p>段階を経て進めていく必要がある、いかに関係者を増やしていくかを考える。</p> <p>■以上のこれまでの現状共有、問題把握、課題整理を踏まえて、NPO 法人 Hub's の林さんに「農福連携」の勉強会を開催いただきました。</p> <p>矢問農園の会議室にて、参加者は、地主である管理組合が6名、事業主体であるJAが2名、川西市役所の農政部門の担当である産業振興課が2名、兵庫県福祉事業者の取りまとめをしている兵庫セルフセンターが2名、主催団体である百生一輝が2名。</p> <p>内容</p> <p>「農福連携とは何か」「障がいがある人を取り巻く環境」「障害福祉サービス」について。兵庫セルフセンターの方以外は、初めて聞く内容も多かったようで、熱心にメモを取っておられる方もいました。</p>
	残る課題	<p>課題</p> <p>地主である管理組合に当事者意識が薄いこと、JA や川西市の意向が見えないことが挙げられます。そのため以前の報告書でも記載したように、農水省や兵庫県の補助金・助成金を活用していくためにもう少し各団体から主体的に関わ</p>

		ってもらふ必要があると考えています。今回の勉強会を通じて、障害福祉事業者が抱える課題を知ってもらったため、各団体の動きを待ちつつも、関係者で少しずつ話を進めていきたいと考えています。
	アドバイスの効果	専門的な知見を活かして、普段のアイデアからは出てこない意見を沢山頂戴することができました。また現状をきれいに整理しながら、こちらの状況を踏まえた上で提案して下さったため、大変助かりました。
	今後の方針	当事者（障害福祉事業者）として言い出しにくいことを、第3者として全体の場で発言していただきとても助かりました。またアドバイザーの方とも相談しながら進めていけると嬉しく思います。



5) コミュニティ菜園、食農ライフ

NO.5【アローレハ王子】東京都八王子市

アローレハ王子は八王子市にある地域密着型のスポーツクラブで、市民参加型のイベント開催等に熱心。所在地周辺では耕作放棄地が増えており、クラブメンバーである市内の法政大学学生のアジアで、大学馬術部馬場の馬糞の堆肥化の取組を含め、クラブの事業として農地を利用した地域振興事業ができないか模索している。

また、そのパイロット事業として、クラブ内の空地を利用し、法政大学の学生の参加を得て、江戸東京野菜の栽培を行っており、今回は、専門家に地域振興事業の構想づくりと江戸東京野菜の栽培指導の両面でアドバイスをお願いすることとした。

実施時期	令和4年6月～令和5年2月	
依頼団体	アローレハ王子	
専門家 (所属・氏名)	株式会社小城プロデュース・福島秀史	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催 ・オンラインによるビデオ開催
	形式	・会議 ・その他(現地でのレクチャー、実践方式)

	テーマ	<p>アローレハ王子の敷地内一角を開拓して畑とし、そこに法政大学馬術部が持つ馬糞という活用可能性のある資源を堆肥化して利用しながら、栽培の過程でアローレハ王子スポンサーの介護施設に所属する高齢者や障害者の方々を巻き込むことで就労支援にもつなげる。また、アローレハ王子の育成年代の選手たちも巻き込むことで伝統野菜の認知度アップと、農業後継者の担い手を多層化することを目指す。</p>
	アドバイスの内容	<p>アローレが持つグランド横の傾斜とキャンプ場付近に開拓した畑に植えた野菜の苗がよく水分や土からの養分を吸収するための工夫する点などについてご教示いただいた。また、現在植えてあるトマト、きゅうり、カボチャの野菜と相性の良い野菜などもアドバイスをいただき、空いたスペースになす、バジル、オクラなどの新しい野菜の苗も定植させて頂いた。</p> <p>前回定植したカボチャの苗がなかなか成長しない状態が続いたため相談したところ、馬糞を追加した方が良いとのアドバイスを頂いたため法政大学馬術部から追加で用意して頂いた上で馬糞を撒いて土壌改良を図った。またカボチャを栽培するグランド横の傾斜では雨が降った際や水をやった際に自然と下に向かって水が流れていくよう、畑に溝を作った。また、苗周辺を若干山形に形成することで栄養を吸収しやすい環境づくりに努めた。また、トマトの苗付近には相性の良いバジルの苗の定植、そして伸びてきたトマトときゅうりの苗の誘引作業を行なった。横のスペースで茄子の苗の定植も行なった。</p>
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	アドバイスの効果	<p>カボチャに関しては畑の土壌改良と作りを変えたのちに数日で葉の色味がよくなり大きさもかなり大きくなってきている。</p> <p>またトマトときゅうりの苗の誘引作業をすることで伸び切って不安定になっていた苗が安定し、苗が力強く伸びてくるようになった。</p> <p>これから実際に夏野菜の収穫と秋野菜の種まきに向けて少しでも実際に収穫できたという実体験を選手にもお手伝いしていただいた方にも提供することができるよう毎日一回の水やりに関しても今よりシステム化することで確実なものにしていく。現在は自分ができるだけ畑に足を運んでいる状態だが、毎日クラブハウスに練習で訪れる育成年代の選手たちに負担にならない形で楽しみながら水やりをできる環境づくりをすることでこの取り組みの本質的な課題にも解決に向けて進めていく。</p>
	残る課題	<p>夏野菜の収穫後、秋冬野菜の種まきについてと夏野菜収穫までのレポート作成にあたってのアドバイス、今後の方向性などについてご教示を頂いた。秋冬野菜の種まきを進めるにあたって、夏野菜回収後の耕す作業についてご助言を頂いた。</p> <p>夏野菜の実なりが天候不順によってよくない事も参考に、秋冬の野菜は湿った土を好む三つ葉などを中心に種を撒く方向で決定した。</p> <p>夏野菜での成功、失敗を活かして次は育成年代の選手も巻き込むなど、活動の幅を広げていきたい。</p>
	今後の方針	<p>現在アローレハ王子のクラブハウス内で栽培している冬野菜(伝統野菜)に関して、日当たりの問題から育ちが緩やかになっている現状や、土に法政大学の馬術部と協力して完成した馬糞堆肥を追加することで土壌改良する必要性についてのご助言をいただきました。今回は MTG の中でクラブハウスの中にとどまらず、本来の目標であった里山再生の活用に向けて、土地の賃貸借についての具体的なご指導をいただきました。現実的にアローレハ王子が土地を借りることは難しく、地主さんや八王子の多様なコミュニティの人々を巻き込みながらできることから少しずつ始めていく方針です。</p>



NO.6【東邦レオ株式会社】 大阪市

東邦レオ(株)は以前あべのハルカス農園を株式会社近鉄百貨店から業務受託しており、その折にも栽培指導やイベント開催に当たってアドバイザーを派遣してもらった。今回は森ノ宮の商業施設「もりのみやキューズモールBASE」前の広場約 100 m²でシェア型農園「もりの休日」の運営を東急不動産株式会社から受託(ハルカスは区画割農園)。因みに東急不動産株式会社はこの事業を商業施設のファンづくりと捉えている。

アドバイザーには施設内に設けられた「まちライブラリー」という持ち寄り図書館で、浪速の伝統野菜についての講演をお願いした。

実施時期	令和4年12月	
依頼団体	東邦レオ株式会社	
専門家 (所属・氏名)	難波 りんご	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(座学・収穫体験)
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	テーマ	なにわの伝統野菜を知ろう 第一回座学イベント
	アドバイスの内容	古地図を使って大阪の地形、気候、歴史から、なにわの伝統野菜の天王寺カブラ、難波ネギ、田辺ダイコンがどのように栽培されてきたかや、効能についてご説明頂きました。
	アドバイスの効果	なにわの伝統野菜について深く知って頂くことにより、愛着を持って頂くことができました。今後の購入のきっかけや流通について考えて頂くきっかけにもなりました。
残る課題	今回は座学のみで食べて味を知って頂くことができませんでした。そのため次回は試食イベントを企画中です。試食頂くことにより、さらになにわの伝統野菜についての知識を深めて頂きます。	

	今後の方針	来年度もなにわの伝統野菜について知って頂くためのイベントを企画いたします。 産地を訪問し、生産者様からのお話、流通やその課題についてお話を伺えたらと思っております。
--	-------	---



NO.7【株式会社 野上緑化】 富山県魚津市

(株)野上緑化はコミュニティガーデン事業に取り組んでおり、企業グループ NAPs(ナップス)を立ち上げ、富山県魚津市の魚津総合公園において、にぎわい創出パートナーシップ事業を実施している。

2020年に公募により「みらパーク」の愛称を決定し、公園内の無料休憩所のリノベーション事業や日常にも賑わいを創出できるようにイベント開催するなど様々な取り組みを行っている。

このアドバイザー派遣依頼は、その事業の一つであるコミュニティガーデン倶楽部(地域住民10数名と活動)による公園内の子ども向けコミュニティ菜園づくりのための具体的アドバイスを求めたものであり、東京都葛飾区でたもんじ交流農園活動を行っているNPO法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会の小川事務局長にオンラインでその活動体験をお話いただいた。

実施時期	令和4年12月	
依頼団体	株式会社 野上緑化 コミュニティガーデンチーム	
専門家 (所属・氏名)	NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会・小川 剛	
会合の形態	開催方法	・オンラインによるビデオ開催
	形式	・その他(座学・収穫体験)
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	テーマ	「“たもんじ交流農園”の活動 ～まちなか農園創設で、笑顔あふれる墨田区に!～」 (内容) ・なぜ農園を創設するのか、基本理念の明確化と共有が大事。 ・「来る者拒まず、個人団体と交流の輪を広げる、皆が自分の夢を実現する」がてらたま協議会の方針。 ・無理せず楽しく、ゆるく活動することが継続のポイント。
	アドバイスの内容	(効果) ・事前の質問に対して、たもんじ交流農園の具体的な事例を示して説明頂いたことで、今後こども菜園を始めるにあたり目標とするイメージを持つことが出来た。

残る課題	(課題) ・自分たちが目指す「こども菜園」の目指すところを明確にすること、また一緒に活動をしていく多様なメンバーを集めることが課題。
今後の方針	(方針) ・まずは自分たちの活動の場で、目指すところを明確にすることから始めたい。小さくてもまずはやり出すことで一緒に活動するメンバーを募り、関わる人が楽しいと感じられる場所になるように活動をしていきたい。今後もいろいろな事例を参考にし、現地見学なども行っていきたい。



7) 障害者福祉等

①特別支援学校・特別支援学級

NO.8【戸田市立戸田第一小学校 まめの木学級】 埼玉県戸田市

まめの木学級は特別支援学級で、児童数 26 名、教員 4 名、支援員 2 名からなる 1 年生～6 年生の混合クラス。学級の活動の 1 つとして野菜の栽培は例年行っているが、コロナ前に実施していた調理実習ができなくなったので昨年からは収穫物を販売する活動を行っている。

虫食いが多かったり、収穫時期がズレたりすることが多かったため、冬野菜の育て方のアドバイスを求めるための専門家の派遣をお願いした。

実施時期	令和 4 年 11 月	
依頼団体	戸田市立戸田第一小学校 まめの木学級	
専門家 (所属・氏名)	水口 均	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(実技指導)
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載するこ	テーマ	特別支援学級の児童及び教員に、冬野菜の育て方のアドバイスをいただきながら、実際に畝作りや種まきを行いました。
	アドバイス の内容	種のまき方や水のやり方、畝の作り方を説明していただきながら子供たちと一緒に畑で作業を行っていただきました。その際、冬野菜と夏野菜の水の上げ方の違いや畝の方向の利点(風通しなど)、冬野菜ならではの育て方の注意(不織布の使い方や虫よりも鳥に注意することなど)を話していただきました。
	アドバイスの 効果	子供たちも夏野菜で虫食いが多く発生していたので、どのようなことを注意すればいいのかがなんとなく分かったと思います。

と。)	残る課題 今後の方針	種まきの時期が遅くなってしまっているため、年内にどこまで大きくなるか心配なところはありますが、育てた野菜を先生や保護者、地域の人に売っていく予定です。
-----	---------------	---



③福祉事業所、農福連携

NO.9【ひら自然菜園】 滋賀県大津市

相談者は1町歩の畑で有機農業をしている農家。約700㎡の雑種地を借地利用し、近所の福祉事業所（B型、施設外就労）と連携し、市民農園を開設・運営している。

借地の中の空いている土地を利用し、市民農園利用者の憩いの場やB型事業所の利用者が働く農作物加工・集配拠点を整備したいと思っており、施設計画や補助事業の活用等をアドバイスしてもらえる専門家の派遣を依頼した。

実施時期	令和4年8月～令和5年3月	
依頼団体	ひら自然菜園	
専門家 (所属・氏名)	NPO法人 HUB's・林正剛	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催 ・オンラインによるビデオ開催
	形式	・会議
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ■テーマ ・農副連携事業による農業、貸し農園事業の今後の展開について ・農福連携事業申請に向けた資料の最終確認について
	アドバイスの内容	<ul style="list-style-type: none"> ■アドバイス内容 ・農福連携による農家の収益向上 ・福祉事業所との連携による貸し農園の拡大 ・物流拠点によるあらたな障害者への作業の切り出し方など ・農福連携によるぶどう栽培の方法から管理の方法や利用者さんのオペレーションなどを視察した。 ・農福連携事業申請資料全般の具体的な内容説明と適切入力方法について
	アドバイスの効果	<ul style="list-style-type: none"> ■アドバイスの効果 ・アドバイスを受ける前よりもより鮮明に何をすべきかどうかのイメージできるようになりました。特に同時並行できるかどうかの優先順位が不明確だったために、この時間を機に具体的に決めることができそうです。 ・現地の実施内容は理解できた。将来的に取り入れる可能性のある果樹栽培の参考になった。 ・構想を具体的に資料に落とし込むことができ、資料全体が一貫した内容に仕上げる事ができた。

残る課題	<p>■残る課題 農産物生産と貸し農園事業では福祉施設に通所する利用者さんとの連携が不可欠なため、今後は現場で円滑に動いていただけるようにする必要があります。そのためにより密なコミュニケーションが必要と考える</p>
今後の方針	<p>■今後の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流拠点に必要な設備の洗い出しから、利用者さんへの作業の割り振りなどの検討をする必要がある。 ・ひら自然菜園での取り組む場合の具体的な品種の選定と調査をする。 ・申請の審査の結果次第では今後もご指導を仰ぐことになる可能性もある。



NO.10【有限会社ポニーの里ファーム】 奈良県高取町

ポニーの里ファームは、乗馬セラピーを通じて、障害のある人もない人も健やかに共生できる社会と作りたいという思いから1995年に開設した「ふれあい乗馬センターポニーの里」から派生した団体。

農地保有適格法人で4町歩半の農地(水田、畑)を所有しており、米、青ネギ、大和当帰(薬草)の栽培を中心に

①農業の6次産業化事業、②農福連携事業、③まちづくり事業に取り組んでいる。

今回は、棚田を利用して自然薯栽培を行うに当たっての排水路整備等の土木技術や薬草残滓を利用した自家製堆肥作りについてアドバイザーの派遣を依頼した。

実施時期	令和5年2~3月	
依頼団体	有限会社ポニーの里ファーム	
専門家 (所属・氏名)	株式会社オーガニックワン・鈴木健太郎	
会合の形態	開催方法	・会議 ・その他(圃場にて打ち合わせ)
	形式	・講演会等
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係に記載すること。)	テーマ	① 自然薯植え付けのための準備と圃場整備について ② 自家製堆肥づくりの管理方法について
	アドバイスの内容 アドバイスの効果	<p>【アドバイス】</p> <p>① 自然薯栽培圃場を見学していただいたうえで、排水するための溝を切る方向についてアドバイスをいただいた。</p> <p>② 自家製堆肥作りについて、堆肥を混ぜるタイミングや温度管理の方法、水分量の管理方法についてアドバイスいただいた。アドバイスを元に堆肥の切り返しを行った。実際に堆肥内の温度が上がり、発酵が進んでいることが確認できた。翌週も切り返しを行うことで、堆肥全体が発酵するようにすすめる。</p> <p>③ 自然薯栽培の種芋の植え付けに関する手順を教わった。</p>

		④ 自然薯の種芋の植え付け準備に関して、山土を波板に乗せる方法に関して教わった。4人1組で作業する方が効率がよく、1日で約200枚程度作業できるなどの確認も行うことができた。
	残る課題 今後の方針	【課題と方針】 ① 排水に関しては、継続。 ② 堆肥に関しては、継続。 ③ 自然薯は3月中に種芋の植え付け準備を行い、4月末ないし、5月頭に植え付けを行うスケジュールとなった。



NO.11【新潟医療生活協同組合】新潟市

新潟医療生活協同組合は、もともとは医療サービスを中心にした生活協同組合だったが、近年は医療だけでなく、介護（予防）、福祉の事業を展開するようになってきている。

障害者の雇用の場の創出を求める地域の声に応え、新しい取組として、周囲に散在する耕作放棄地を活用し、障害者を雇用して農業に参入する事業を検討している。

そのため、農福連携の全体の状況と、障害者を雇用しての農業の実態、課題を教えてくれる専門家の派遣を依頼した。

実施時期	令和5年3月	
依頼団体	新潟医療生活協同組合	
専門家 (所属・氏名)	NPO法人HUB's・林正剛	
会合の形態	開催方法	・オンラインによるビデオ開催
	形式	・会議
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスの関係性を記載する)	テーマ	・NPO法人立ち上げ、農福連携の取り組みについて
	アドバイス の内容	・単に「障がい者に働き口を与えること」だけでなく、無農薬無肥料、自然栽培といった「売り」を作っていく必要があるのではないか。 ・医療生協の取り組みとつなげる為には高齢者が農業参画することで健康寿命を延ばしたり園芸療法につながる、などのアピールがあってもよいのではないか。
	アドバイス の効果	・短絡的に「障がい者に働き口を与えること」を主眼に置いて計画していたので、多角的に考えるように再度検討する。

と。)		・農作業だけでは収益的にも厳しいことを考慮し、セントラルキッチン事業とも絡めて作業を考える。
	残る課題	・新潟の四季を考えたときの作物の選定 ・セントラルキッチン事業も含めた作業で工賃をどこまでまかなえるか
	今後の方針	・方向性を再検討し、ご教授いただいた補助金も有効に活用したい。



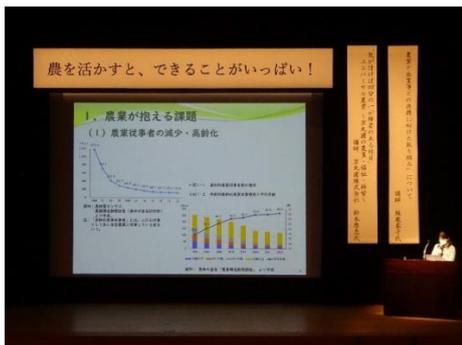
NO.12【湖南省農業振興協議会】滋賀県湖南省

市が事務局を務める湖南省農業振興協議会のイベントとして、湖南省やその周辺では耕作放棄地が増えており、他方、工業団地が多く企業も多数あるので課題解決に向け、企業の農業参入をテーマに市民向けに講演会を企画することとした。また、養護学校や福祉事業所もあるので、併せて農福連携をテーマに加えることとした。

特に農福連携については浜松市で農福連携事業を営んでいる鈴木氏の話を知りたいとの声があり、そのことを含めて専門家派遣依頼を行った。

実施時期	令和5年3月	
依頼団体	湖南省農業振興協議会	
専門家 (所属・氏名)	宮城大学食産業学群・緩鹿泰子 京丸園株式会社・鈴木厚志	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	テーマ 【緩鹿泰子氏】 「農業と企業等との連携に向けた取組み」 農業が抱える課題 ・農業従事者の減少・高齢化 ・農地面積の減少 ・荒廃農地の発生防止と解消の取組 企業の農業参入の現状 ・農業の担い手減少と高齢化、耕作放棄地の増加 ・制度的な要因→政策的に企業の農業参入を推進 ・消費市場や経営戦略の変化 企業の農業参入の特徴 ・食品産業の経営課題 食品企業以外の法人の農業参入 ・経営資源	

<p>アドバイスの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の維持 ・地域貢献 ・環境・資源への貢献 <p>上記の内容をパワーポイントを使って説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ <p>企業は、農業を新規事業として選択するケースが多い。 参入目的は、原料調達、CSR活動、経営資源の活用、雇用の場の確保、ビジネス化に向けた先行投資など様々。スマート農業の普及によって、農業経営が可視化されるようになったことで、多様な人材の参画を可能にする環境が構築。企業と農業の双方の強みを生かし、地域の課題解決に取り組みながら、利益を生み出していくことに期待。SDGS の観点からも農業は注目されており、持続可能な農業・食料供給を実現するために、今後多様な業界や地域等との連携が不可欠である。</p>
<p>テーマ</p>	<p>【鈴木厚志氏】 「気が付けば、4 分の 1 が障害のある社員」ユニバーサル農業</p>
<p>アドバイスの内容</p>	<p>笑顔は人と人との和の始まり。 互いの笑顔が互いの支えとなるようにをモットーに。 障害をもっていても、仕事はできる。 人の役にたつことはいっぱいある。 目線を変えることによって、障がい者への向き合い方が変わる。 作業指示を的確におこなうことで、作業能力はアップすることが出来る。</p>
<p>研修参加者の感想</p>	<p>【研修参加者から】 1部の講演では、企業参入に興味を持つ企業は多いが、長続きしないイメージがある。 大企業であれば、取り組みやすいかもしれない。 耕作放棄地になった圃場がいくらあっても、条件に合い、農業参入が可能であればいいが、地元調整等大変ではないか。</p> <p>2部の講演は、参加者が興味津々であった。 チラシを見て、鈴木さんの講演が聞きたかった。 テレビで見たことがある。 以前にも講演を聞いたことがあったがもう一度聞きたいと思った。 障がい者の子供がいるが、鈴木さんの話をもっとたくさんの人に聞いてもらいたい。</p>
<p>アドバイスの効果 残る課題 今後の方針</p>	<p>湖南省では、農福連携の一環として、湖南省東寺地域が令和4年度から中山間直接支払交付金を活用し、県立三雲養護学校と連携した取り組みを行っている。農業体験型交流会では、地域住民と生徒が豊かな自然環境に囲まれた棚田で、田植えや稲刈り等の農作業をともにを行い、棚田保全の共同活動に取り組むことを目的としている。ほ場でとれた米については、生徒たちが精米まで行い、各家庭に持ち帰り家族で食べたり、調理実習でおにぎりを作って食べたりもした。理科の授業で、毎週のように圃場に行き、稲の成長を観察し、とても良い経験が出来た。12月には稲わらでリース作り、3月にはじゃがいも植えを行い、参加した生徒はもちろん、親、先生も大喜びして下さっている。東寺地域と三雲養護学校の協定締結の話もあるため、今後も続けていきたい活動である。</p>



8) 学校教育等の食育

①東京都内小学校の授業

NO.13【杉並区立松ノ木小学校】東京都杉並区

松ノ木小学校の食育担当をしている。小学校 3 年生の社会科の授業の中で、自分たちの住んでいる杉並区という町や地域での農業について学ぶ機会を作りたい。そのため、特に東京都や杉並区でどんな野菜が栽培され自分たちの暮らしに取り込まれているのか教えてもらいたいと考え、江戸東京野菜について知識・経験豊富な江戸東京・伝統野菜研究会代表の大竹道茂氏の講師派遣をお願いした。

実施時期	令和 5 年 1 月	
依頼団体	杉並区立松ノ木小学校	
専門家 (所属・氏名)	江戸東京・伝統野菜研究会 大竹道茂	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載するこ と。)	テーマ	「江戸東京野菜を学ぼう」
	アドバイスの 内容	①自分達が住んでいる地域の農業の様子について ②杉並区や東京都内で栽培されている野菜について ③身近な場所で栽培されている江戸東京野菜について
	アドバイスの 効果	・江戸東京野菜への知識が広められた。 ・身近な地域で栽培されている野菜や杉並区の農業の様子を知る機会となった。 講師の先生の話聞き、児童の野菜への興味が高まった。江戸東京野菜を通して、野菜や地域の農業等について児童の知識を広げる機会が今後も設定できると良い。
	今後の方針	可能ならば、来年度も 3 学年においてこのような地域の特色と江戸東京野菜を学ぶ学習の場を設定したい。



NO.14【東京女子学院高等学校】東京都練馬区

東京女子学院高等学校の 3 つのコースのひとつ、フードカルチャーコースでは、食に関する様々なテーマを扱うが、実技としての作物栽培、調理も含まれている。

そこで、江戸東京野菜の専門家大竹氏、渡邊氏の派遣を依頼し、東京と地場野菜の歴史の学習、伝統野菜であ

る小松菜、練馬大根、亀戸大根等の栽培・収穫を行うこととした。

11月には、アドバイザー派遣ではないが、大竹氏の紹介により、世界的に有名な料理人三國シェフによる調理指導、特別授業もしてもらった。

実施時期		令和4年9~11月
依頼団体		東京女子学院高等学校
専門家 (所属・氏名)		江戸東京・伝統野菜研究会 大竹道茂 渡邊和嘉
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等 ・その他(農作業指導・食育・調理実習)
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	テーマ	■講義「江戸東京野菜とは」、農作業指導「練馬大根、亀戸大根、品川かぶ、伝統小松菜の播種」
	アドバイスの内容	江戸東京野菜とは何か、今日までの歴史やその栽培に関わる方々の想いについてお話をうかがいました。また、校内農地において「練馬大根」を栽培するにあたり、その特徴や栽培方法を教わりました。練馬区の小・中学校出身の生徒は給食で練馬大根を食べたことがあります。大根そのものを見たことがある生徒はほとんどおりません。これから栽培を通して、昔の人々が大切に育てた味を受け継ぎ、食文化を伝えていくことの大切さを学んでいきたいと思います。
	アドバイスの効果	校内農地において、土づくりの作業を行いました。昨年度より栽培を行っている畑ですが、夏休みの間にかなり荒れてしまい、雑草を除去して耕すのに多くの時間を要しました。肥料や苦土石灰を含ませて畝を整えましたが、農作業は多くの時間と労力が必要であり、日々手をかけることが大切であることを知りました。
	残る課題 今後の方針	10月に校内農地の畑を耕し、たい肥、肥料などを混ぜて亀戸大根、品川かぶ、伝統小松菜の種まきを行いました。土の混ぜ方や畝の作り方について丁寧にご指導をいただき、一条まき、二条まきなどの種のまき方も教わりました。前回種をまいた練馬大根は芽を出し、生長していたので、観察と間引きの作業を行いました。畝を整える意味や間引きの必要性など、作業をしながら一つひとつ理論的に説明していただき、野菜を丈夫に、効率よく育てるためのテクニックを学びました。夏休みにいただいた千住ネギの苗も大きく育っていたので、そちらの手入れの仕方も教わりました。改めて野菜の栽培には多くの時間と手間を必要とする大変な作業であるということを実感し、冬に向けてこれらの野菜を大切に育てていきたいとの思いを強くしました。
	テーマ	■食育「三國シェフによる味覚の授業とハンバーグの調理」
	アドバイスの内容	大竹先生、渡邊先生のご紹介により、ホテル ドゥ ミクニの三國清三シェフにご来校いただき、特別授業をしていただきました。味覚が幼少期に確立すること、できるだけ多くの食材から5味を経験することで味わいが豊かになることを学びました。調理実習ではおいしいハンバーグと、オリジナルマヨネーズの作り方を教わり、コツを学びました。マヨネーズは本校で栽培した野菜でサラダを作って試食しようと検討していましたが、残念ながらタイミングよく栽培ができませんでしたので、渡邊先生の畑で収穫されたものを使わせていただきました。
	アドバイスの効果	また、別日に本校の農園で栽培した江戸東京野菜の調理として、大竹先生から教わったレシピで内藤かぼちゃのプリンを作りました。実の色ややわらかさなど、私たちが普段食べているかぼちゃとは全く違うことを実感し、とても貴重な経験となりました。現在も練馬大根を栽培中です。育てた野菜を調理していただくことで、より一層、豊かな食生活の重要性を感じる事ができました。
	残る課題 今後の方針	



②東京都内小学校を除く学校での授業等

NO.15【一般社団法人 小金井市観光まちおこし協会】 東京都小金井市

小金井市観光まちおこし協会は、東京都が都市農地貸借円滑化法に基づき都市農地（生産緑地）貸借のモデル事業として開設したわくわく都民農園小金井の管理運営を担当し、「農」を通じた地域の魅力発信やコミュニティ形成活動を行っている。

その一環として、12月に広く市民を対象にした地域の農家の栽培した野菜収穫体験、調理体験ワークショップを開催することとし、地域で活動している江戸東京野菜と調理を専門とするアドバイザー派遣を依頼した。

実施時期		令和4年12月
依頼団体		一般社団法人 小金井市観光まちおこし協会
専門家 (所属・氏名)		江戸東京野菜コンシェルジュ協会・松嶋 あおい
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(農地での野菜収穫体験イベント・西洋野菜イベント)
アドバイスの 内容・効果 等 (継続の場 合には、必ず 前回のアド バイスの関係 を記載す ること。)	テーマ	地産地消、食育推進、農地の利活用
	アドバイスの 内容	<p>■小金井市内の農地で、ダイコンの収穫体験、菜飯のおむすびと三種のダイコンの豚汁とからみもちをいただくこと、畑えほんづくりワークショップ、三種のダイコンの食べかたミニ講座を通してダイコンをたっぷり味わい、また畑で過ごす豊かさを楽しむイベントを開催。</p> <p>イベントでは、3種類(大蔵ダイコン、青首ダイコン、おふくろダイコン)の収穫(ダイコン抜き)を体験してもらったので、地産地消、食育推進の観点から、ダイコンの種類別の特長と料理方法について、説明チラシを基に派遣アドバイザーからご説明いただいた。</p>
	アドバイスの 効果	<p>参加者には、収穫体験したダイコンを持って帰った後にどのように食べるといいのか、どんなふうに保存するといったアドバイスのアドバイスが大変好評だった。</p>
	アドバイスの 内容	<p>■小金井産の西洋野菜でピザを作り、西洋野菜の魅力を知っていただくイベント。</p> <p>ピザ作りで余った西洋野菜も豚汁としていただき、様々な調理方法が可能ということも学び楽しんだ。普段使い慣れていない方が多い西洋野菜の魅力を知っていただくため、農家と派遣アドバイザーから使用する西洋野菜を一つ一つ紹介していただいた。西洋野菜についての食べ方・保存方法等、地産地消、食育推進の観点から、西洋野菜の特長と料理方法について、派遣アドバイザーからご説明いただいた。</p>

アドバイスの効果	参加者には、お土産として持ち帰り用の西洋野菜を持ち帰った後にどのように食べるといいのか、どんなふう保存するといったなどのアドバイスが大変好評だった。西洋野菜のピザ作りのフォローや豚汁作りも中心となっておこなっていただき、ご活躍いただいた。
残る課題 今後の方針	当協会としては、小金井の都市農業の多面的機能を積極的に進めることが課題となっていることから、今回の成果を踏まえて、収穫体験を絡めたイベントや小金井農業の認知を広めるイベントを行う場合は、「農」の機能発揮支援アドバイザー」を積極的に活用して地産地消・食育推進の拡大を図っていきたいと考える。



12/17 大根畑収穫①



12/17 根畑収穫①



12/24 西洋野菜ピザ①



12/24 西洋野菜ピザ②



12/24 の会場「わくわく都民農園小金井」

都市農地(生産緑地)貸借のモデル事業として東京都が開設し
小金井市観光まちおこし協会が管理運営

①特定都市農地貸付→シニア農園

②自ら耕作→福祉農園、学校農園、地域多世代交流農園

※農地貸借契約は管理運営者が農地所有者と締結

当日はこのセミナーハウスでイベント実施

9) 6次産業化

①自治体、NPO法人、協議会等

NO.16【茨城県阿見町農業振興課】茨城県阿見町

阿見町では町のブランド米であるミルクQueenを使って、地域に根差した酒造りを行うプロジェクトを東京農業大学と連携し進めている。その一環として、日本酒の仕込みが終わった後、醪(もろみ)を搾った時に出る酒粕を利用した新たな商品開発を行うこととしており、今年度は専門家のアドバイスを得て試作品づくりまで進んだ。

実施時期	令和4年6月～令和5年1月	
依頼団体	茨城県阿見町	
専門家 (所属・氏名)	本橋 修二	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・会議
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	阿見町酒粕プロジェクト会議 (阿見町産ミルキーQueenを原料とした地酒の醸造で発生する酒粕を活用した6次化商品の商品化と販路開拓について)
	アドバイスの内容	酒粕、甘酒の状況などについて町から情報提供を行った。 ロゴデザインについてデザインを決定した。決定したロゴデザインについて、本橋先生より事業内容を表し、普遍的で今後の酒粕加工品に使えるものであると助言を受けた。 事業のまとめとして、加工品の最終決定に向けた状況確認を行った。U氏は「酒粕シフォンケーキと酒粕ビスケット」の2品、Y氏は酒粕テリーヌと酒粕フィナンシェ」の2品、YH氏は「甘酒スムージー」の1品とした。 あみローカルフードマーケットにおいて出品している商品を見て、本橋先生より、加工品の販売にあたり、食品衛生法と食品表示法に基づいた取り組みが進められるよう食品の一括表示の原料と添加物の区分表示の方法、アレルギーの表示、栄養成分表を活用した栄養成分推計値表示の方法について資料と合わせて、販路開拓とブランド構築の原点となる適正な情報提供の重要性について説明を受けた。 今後の新商品開発について、酒粕と米粉をコラボした加工品開発について資料と合わせて提案をいただいた。併せて HACCP の考え方を取り入れた衛生管理の取り組みを継続することと記録することなど、助言を受けた。
	アドバイスの効果	各員の商品が確定してきたことで、栄養表示についても具体的な助言をもらうことができ、今後の販売機会に活かせるようになった。今後の商品開発についても案を提供してもらうことで考えの幅が広がった。
	残る課題 今後の方針	・栄養表示の適正化 共通シールを完成させ、最終的に酒粕を活かした新商品として完成品を作成することとした。



NO.17【亀岡市農林振興課】 京都府亀岡市

亀岡市では市内に有人直売所が約20か所ある。この人たちを中心に、売れ残った野菜をどう活用するか、又、加工販売等の進め方について講演会を開催することとし、専門家の派遣を依頼した。

実施時期	令和5年2月
依頼団体	亀岡市農林振興課
専門家 (所属・氏名)	株式会社オーガニックワン・鈴木健太郎
会合の形態	開催方法 ・現地での実開催 形式 ・講演会等
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスとの関係を記載すること。)	<p>テーマ 「直売所向け売上アップのコツ教えます!」をテーマに勉強会を開催しました。</p> <p>アドバイスの内容 本市の直売所が現在直面している問題として高齢化による出荷者の減少や端境期を中心に野菜が揃わず、品薄の状態が続いていることがあげられます。ただ、高齢のメンバーを中心に取り組んでおられるので、今から何かを新たに始めるというのは難しい。そのような現状を踏まえて、今回は少しの工夫で売上がアップし、安定的な直売所の運営につながるような工夫についてお話していただくよう依頼しました。</p> <p>アドバイスの効果 具体的には、端境期に継続的に収穫を維持するための栽培法や余った野菜の販売先開拓の方法等です。鈴木さんが経験されたこれまでの取組から具体例を交えてお話してくださったので、参加者は概ね分かりやすかったと満足されていました。</p> <p>残る課題 今後の方針 高齢化や後継者不足は一朝一夕に解決するものではなく、現在の担い手の方が引退される際には直売所の統廃合はある程度避けられないものと思いますが、消費者の方に新鮮野菜を提供できる場を維持していただけるよう市として今後も直売所支援に取り組んでいきたいと思っています。</p>



直売所向け 亀岡市の夢工場

売上アップのコツ教えます!

農産物や加工品として4年ほど販路に同じ野菜が並びますが、収穫時期をずらして出荷を上手に、端境期に収穫しやすい品種を栽培するなど工夫した工夫で売上アップが実現しています。ぜひ参考にしてください。

今年度の「亀岡市の夢工場」研修会では講師に「株式会社オーガニックワンの鈴木健太郎さん」をお招きし、直売所向けに役立つアイデアについて、お話を伺います。

と き 令和5年2月28日(火)
午後2時～4時

と ころ 亀岡市役所別館 3階 会議室

内 容 (1) 端境期を乗り切るための新たな栽培品目について
(2) 販路拡大のアイデアについて

農の機能発揮支援アドバイザー
講師 鈴木 健太郎 さん (株)オーガニックワン

【講師紹介】
(株)オーガニックワン 鈴木 健太郎 さん
北山農産物産直店や有機栽培施設、また直売所への農産物入支援等を行っている他、自治体の関係者等に合わせた栽培指導研修も実施しています。

申し込みはこちら

亀岡市 農林振興課 農林振興課 (担当: 実野)

11) 入園方式等の農業経営

NO.18【河原農園】 東京都町田市

町田市で農業を営んでいるが、最近柿の実の実り方が悪くなってきていることが気になり、剪定の仕方等をアドバイスしてくれる専門家の派遣をお願いした。オンラインではなかなか伝わらないこともあるので、無理をお願いし、現地を見て指導してもらうことにした。

実施時期	令和4年9月～令和5年1月
依頼団体	河原農園
専門家 (所属・氏名)	水口均

会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(対面) ③
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載するこ と。)	テーマ	【テーマ】 柿があまりならなくなってきた。柿の実を付けるための剪定を学ぶ。
	アドバイスの内容	【アドバイスの内容】 柿の枝の新芽の切り方が上手にできていない。 木が病気になるっていたり、虫が木の中にいる為ではないか。 柿の木の剪定をするときの注意。結果枝や若い枝を残すようにする。 柿の剪定は冬に剪定する。
	アドバイスの効果	【アドバイスの効果】 柿の果実のつき方を覚えておくと、良い剪定ができるようになる。 柿の木の剪定では、どの枝を主枝に選ぶかによって変わってくる。 主枝は条件を意識して選ぶこと。 どの枝を残すのか迷い。伸びていた枝を切ってしまったのが実がならない原因だとわかり、枝をよく見ながら剪定することが大事だと思いました。
	残る課題	【残る課題】 柿の木が多いので、少しずつ木を元に戻すような方法を考えて、時間をかけて取り組みたいと思う。
	今後の方針	【今後の方針】 果樹園まではできないが、たくさんの実をつけるように工夫して、皆さんが喜んで柿もぎができるようにしたいです。 とても丁寧な説明をしていただきました。今後ともよろしく願いいたします。



① 「枝はここを切れれば良いですか？」



② 「枝を切る時は、サツヤリにカット下さい」



③ 「葉の下のほうで、
と下の葉がわりと
くさるので枝の上
に枝を切ることに」



④ 「枝のたまたま新しい所も良く剪定下さい」



⑤ 「シロカシを剪定して、ツツアカシを剪定して、
病気に罹ることもありません」



⑦ 「ここが木
腐れたと思
います」

NO.19【群馬県 松井氏】 東京都練馬区

群馬県沼田市で農業を営んでいるが、今度農業体験農園をやってみたいと思い、誰かアドバイスしてくれる人はいないかと相談して全国農業体験農園協会に加藤氏にお願いすることになった。

加藤氏が練馬で運営している体験農園を見ながらアドバイスするのが一番いいだろうという事で、練馬の加藤農園を訪ねご案内いただき、今後に向けた準備等のアドバイスしてもらった。

実施時期	令和4年10月
依頼団体	群馬県 松井氏
専門家 (所属・氏名)	全国農業体験農園協会・加藤義松

会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(見学及び開園相談)
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスの関係に記載すること。)	テーマ	農業体験農園の見学と開園相談
	アドバイスの内容	<p><多くのファンをつくること></p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業体験を手軽に楽しめるようにすること (学びの要素を入れて知識欲にも対応すると充実する) ○交流イベント等を通して、利用者の人間関係をよくすること ○年間を通したカリキュラムを作成すること ○広報はweb・SNSを活用し、他の体験農園と連携すること ○撮影スポットや小道具を用意し、利用者が SNS で発信したくなるようにすること ○1区画は 20 m²で十分である。 ○車で 30 分圏内は利用対象者となる。
	アドバイスの効果	<p><松井(群馬県沼田市郊外、駅・IC から車で 10 分弱)の場合></p> <p>果樹(約 10 種類)を生かす(共同区画をつくる)</p> <p>こんにゃく作り、米作りなども活用できる。</p> <p>練馬 IC 周辺や関越自動車道沿線を利用対象にできる。</p> <p>近隣の河川や棚田等も活用できる。</p> <p>ZOOM での講習や、web での生育状況の配信も活用する。</p>
残る課題 今後の方針	<p><残る課題・今後の方針></p> <p>年間カリキュラムを作成する。開園前に現地での指導を受ける。</p>	



NO.20【ZEN 呼吸法ジネン塾】(長野県上田市)

(塾の主宰者は)元々神奈川県に居住していたが、上田市の農地(及び空き家)購入に合わせ住所を移し、都市住民に呼びかけ会員を募り、年間を通じて水田での米作りや畑の栽培・収穫イベントを実施し、都市住民の農業への理解・関心を高める活動を実施している。

今回は、無肥料無農薬での米作りの際の作業や水田の土壌改良、冬季の管理方法等のアドバイスを依頼した。

実施時期	令和 4 年 6 月～令和 5 年 2 月	
依頼団体	ZEN 呼吸法ジネン塾	
専門家 (所属・氏名)	株式会社みんパタプロジェクト・飯尾裕光	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(実戦での指導)

アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスの関係に記載すること。)	テーマ	<p>【テーマ】 自然栽培、冬季湛水の水田での草の引き方 (長時間の草引きをしても疲れない姿勢のポイントを含む) 自然栽培の田んぼの土壌改良 (草が毎年抑えられない冬季湛水の水田の土壌を調べ、その対策を立てる) 冬季湛水田んぼの管理、大豆の脱穀、唐箕かけ、春からの畑の整備</p>
	アドバイス の内容	<p>【内容】 無肥料無農薬の田はとにかく田植え後の初期に草をどれだけ抜けるかが今後の稲の生育を大きく左右するとのこと、前回の畦塗りの後、早期の除草についての指導をご提案頂きました。 実際、初期段階での除草に失敗し、分結があまりうまくいかなかったことが多かったため(今年 7 年目)、初期除草に力を入れることとし、東京、千葉、神奈川、埼玉などから集まった生徒さんたちに草引きの基本姿勢や、草の引き方をご指導頂きました。 しっかり腰を落とし、ひっかくだけでなく、根から浮かせないといけないこと、また、大きなものは畦まで運ばないといけないことを学びました。集中せずできるだけ沢山の面積を歩き、水を濁らせるだけで草が出にくいこと。草は根こそぎ無くなることはなく、あくまで草が根付くのを遅らせることが草引きだと教えて頂きました。 田の土を掘り起こすと泥層の間にしっかりと砂層があり、そこにホタルイの根が生えてしまうとの指摘。 掘ると確かに地上から 4-5 センチでパツカリ割れてしまった。砂層は酸素が含まれるため、草にとって絶好の場とのこと、本来砂層の無いハズの泥層の田んぼに砂層があると酸素が多く草が生え続けるとのこと、特に草の多かったエリアの天地返しを試みる。肉体労働で都会の人たちも寒さを忘れて楽しんでいた。 草がさほど出なかったところはドリルで穴 30-40 cmほどの深さの穴を開け、粃殻を入れました。 冬季湛水田んぼの管理や畑の整備をメインに大豆の脱穀等を行って頂く予定でしたが、稀に見る寒波とかなりの積雪によりそれができなくなってしまい、周りの竹林整備をし、それを粉碎してパウダーにして堆肥活用をする、というアドバイスを頂き実践しました。</p>
	アドバイス の効果 残る課題 今後の方針	<p>【効果】 歩くと水田に泡が無数にできるのは、余計なガスがぬけているためとてもよいことだと教えて頂き、長年の疑問が晴れました。 10メートル間隔で開けた穴たちから、酸素が土中で結びつき、土の中に酸素が通るとのこと、来年すぐに改善とはいかずとも 2 年後くらいには変化が現れるとのこと、期待したい。</p> <p>大豆の脱穀は初めての方も昔ながらの方法に感激され、大豆が愛おしくなり自分でも大豆を育ててみたい、という意欲を持った方も。 前回側溝と水田の中をパイプでつないで、水の流れを作るという作業をアドバイスいただき、今回水を入れた状態で確認をしたところ、きちんと田に側溝の水が入っておりました。そのためある程度の水の流れや濁りが感じられ、このまま今期の稲作が始まり、どれくらい草の抑制につながるのか、期待して見守ろうと思います。</p>

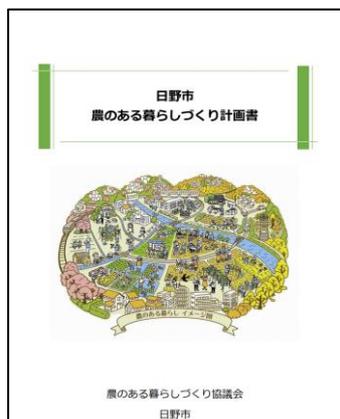


NO.21【一般社団法人 TUKURU】 東京都日野市

一般社団法人 TUKURU は、日野市と協力し、生ゴミ堆肥化で有名な日野市せせらぎ農園の経験を活かした「日野市農ある暮らしづくり計画」を策定しており、計画を推進するため自ら NPO 法人としての事業活動に乗り出そうとしている。

そのため、既に都市農業に関わる事業を実施し、組織運営を行っている NPO 法人の専門家を派遣してもらいアドバイスいただくこととなった。

実施時期	令和 5 年 1 月	
依頼団体	一般社団法人 TUKURU	
専門家 (所属・氏名)	一般社団法人畑会・山田正勝	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他(勉強会)
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載するこ と。)	テーマ アドバイスの 内容	日野市のまちづくり条例に基づく「農のある暮らしづくり協議会」を推進する目的で設立した当法人は、農のある暮らしづくりを担う人材を繋ぎ、活動拠点としてコミュニティガーデンを中学校区に一つ以上作り、農的活動が持続・発展する仕組みを整えるために様々な活動に着手しています。 今年からの本格活動に向け、組織運営の環境整備を進めるため、一般社団法人の先輩「畑会」様より、運営体制、法人関係の書類作成、確定申告などの事務手続き、収益のための事業(自主事業・受託事業)、スタッフの件費とボランティアの考え方など、アドバイスいただきました。
	アドバイスの 効果	その結果、オンラインでの人材育成事業、デザイナーの必要性、シンポジウムなどの開催、有償の体験農園とコミュニティガーデンの併設、目立つ看板などを取り入れてみたいと思いました。さらに、今後の事業内容によっては、お互い協働してサポートしあうことを確認しました。
	残る課題 今後の方針	活動当初の収益は少ないと思われませんが、コミュニティガーデンのモデル地域を増やし、丁寧に実績を増やしていくことで事業を展開していこうと思っています。



12) 地産地消

NO.22【NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと】 大阪市

NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっとは、大阪市生野区の廃校跡地を公募により定期借地し、多文化共生のまちづくり拠点『いくのパーク』として、イベント・スポーツ・アート、学びのサポート、地域に開かれた場づくりを行っている団体。(施設は 2023 年 5 月オープン予定)

今回は、行程の一部を利用して設置しているコミュニティ農園の運営と、連携して開催を計画しているマルシェについて専門家からアドバイスを求めた。

実施時期	令和 5 年 3 月	
依頼団体	NPO 法人 IKUNO・多文化ふらっと	
専門家 (所属・氏名)	合同会社ノコノコ・中川 美陽子	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・会議
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	(以下、アドバイザーのコメントを掲載) *朝市の運営とコミュニティ農園づくりについて
	アドバイスの内容	多文化共生をめざし、地域の廃校となった場所を活用して様々な取り組みを行う NPO 法人からのご依頼。農から生まれるコミュニティに関心あり、すでに農福連携で地元の就労継続支援 B 型事業所と連携し、水やりなどを手伝ってもらっている。朝市を運営し手応えを感じているが、わからないことも多い。 →野菜の金額設定に悩むがそれはお客さんの反応をみながらちょうどよい値段、持続可能な値段を模索していくしかない。そんなに安くする必要もない。また農産物を通してのちょっとした井戸端会議や楽しみの提供が大事なので、ただの野菜販売の場にならないように工夫が必要。またマルシェのように規模を大きくするなら、野菜ばかりが並ぶのではなく、地域の事業者に出店してもらったり、野菜を持ち込んで委託加工して、NPO 法人としてキムチを販売するなど、連携型で商品のバリエーションが増える取り組みもすすめるといい。
	アドバイスの効果 残る課題 今後の方針	コミュニティ農園も、まだボランティアで農作業をたまにしているが、おそらく区画貸しして有料化しても、地域の企業や子供と一緒に農体験したい家族から申し込みがあると推測できる。最低限必要な資金を捻出しながら、いろいろな人を受け入れつつも採算もとれる持続可能な農園の姿は考えられるので、また具体的に相談があれば乗ることとする。



NO.23【株式会社 まなびや PLUS】 大阪市

株式会社まなびや PLUS は民間学童保育・保育園を運営しており、民間学童保育(まなびや CAMP)では秋津野クラインガルテンへの宿泊イベント・葡萄農家との独自のプログラム・健康食家との出汁のとり方講座・おにぎりアクションなど食育に関するプログラムに多数取り組んでいる。

一方、専門家の山口氏はこれまで大阪市内の幼稚園、保育園の園児を対象に紙芝居や果物の食べ比べ等を通じて果物への理解を深めるプログラムを実践してきた。今回、まなびや PLUS のスタッフが山口氏が開講している社会人を対象とした「フルーツ大学」を受講し、ぜひ児童にも果物について学ぶ機会を設けたいという思いから専門家として山口氏の派遣をお願いすることとなった。

実施時期	令和 5 年 3 月	
依頼団体	株式会社 まなびや PLUS (まなびや CAMP)	
専門家 (所属・氏名)	FRUIT GARDEN 山口果物・山口直克	
会合の形 態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・講演会等
アドバイスの 内容・効果等 (継続の場合 には、必ず前 回のアドバイ スとの関係を 記載すること。)	テーマ	【テーマ】みかんの歴史について
	アドバイスの内容	【内容】現在子どもたちが食べているみかんや柑橘類は、甘く、種がないものが多い。しかし、柑橘の元となるものはどのようなものか、どのような味がするのかを実食を通して学んだ。 (九年母・安藤柑・ライム・仏手柑(画像))次に、消費者がどのような味を求め、どのように品種改良され、新しい品種はどのように変化したのか実食した。 (きよみオレンジ・せとか・デコボン・日向夏・晩白柚) 歴史を追いながら実食することで変化が分かりやすく、また子ども自身で甘みや酸味などをグラフ記入することで、品種によっての味の違いを視覚化できる活動を行った。 また、美味しいみかんの見分け方についても学んだ。
	アドバイスの効果	【効果】資料には学んだ知識に加えて自分自身で感じたことを記入する項目もあり、活動を直接目にしていない保護者にも学んだ内容が理解しやすかった。また、美味しいみかんの見分け方などは各家庭で買い物に出かけた際などに活用できるということもあり、子どもにとっても保護者にとってもみかんについての知識を深める学び多き時間となった。
残る課題 今後の方針	【課題】対象学年によって理解度に差が出るので、説明を簡素化したり、視覚的なツールを用いて講義を進めることで理解度を高める工夫が可能だと考えられる。	



14) 農業祭等のイベント

NO.24【和文化・食文化発信 PJ/Irodorilabo.】 大阪市

Irodorilabo.は大阪の子育て世代のママさんが中心となった集まりで、会員数 200 数十名、スタートして 4 年目になる。

昨年初めて食を取入れたイベントとして、農家と連携したマルシェを市内のお寺で開催したが、好評だったので今回は規模を拡大し、天王寺公園てんしば(約 7,000 m²の芝生広場を中心にした公園のエントランスエリア)で開催することとした。

そのコンセプト作り及び当日の会場のレイアウト、スケジュール、動線等についてアドバイスを受けるためマルシェについて経験豊富な中川美陽子氏の派遣をお願いした。

実施時期	令和 4 年 10 月	
依頼団体	Irodorilabo.	
専門家 (所属・氏名)	合同会社ノココ・中川 美陽子	
会合の形態	開催方法	・現地での実開催
	形式	・その他
アドバイスの内容・効果等 (継続の場合には、必ず前回のアドバイスの関係に記載すること。)	テーマ	[テーマ] 様々な世代が交わるてんしばにて「サステナブル」と「アップサイクル」をテーマに、地球に優しい、環境に優しい、身体に嬉しいマーケットを開催。出店がはじめての人も一歩ふみだせるきっかけになる場作りを。新しい世界が開ける場作りを行うイベントです。
	アドバイスの効果	[アドバイスの効果] 食のエリアでのプロの監修のもと、安心安全の食品を提供できました。
	残る課題	[残る課題] 人通りは多い場所なので認知度をあげ継続していくこと、配置の工夫、導線の決め方、マーケットを定着していきマーケットめがけてきてくださる方をもっと増やしていくべくブランディング
	今後の方針	[今後の予定] 様々な職種の方々とコラボをし、ひき続き環境にいい、身体にいいなどの食の情報の発信もしていきたいと思っています。 断続して開催予定です。



農山漁村振興交付金のうち 都市農業機能発揮対策

【https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/tosi_nougyo/attach/pdf/hojo_gaiyou-26.pdf】

詳細はYouTubeで
ご覧いただけます

<対策のポイント>
都市住民と共生する農業経営の実現するため、都市部での農業体験等の取組や農地の周辺環境対策、防災機能の強化等の取組を支援し、その際、都市農地の貸借促進に係る取組を優先的に支援します。また、今後の都市農業振興に向けた国の施策の方向性に沿ったモデル的な取組を支援します。

<事業目標>
都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づき貸借された農地面積（255ha [令和6年度まで]）

< 事業の内容 >

< 事業イメージ >

1. 都市農業機能発揮支援事業

都市農業が有する多様な機能を活用した取組を支援するための都市農業等のアドバイザーの派遣、都市農業を持続的に経営していくための税制度・相続等の講習会の開催、都市住民をはじめとする国民の都市農業に対する理解醸成や農業・農山漁村への関心を喚起するための効果的な情報発信等の取組等、都市農業の機能発揮のための全国に向けた取組を支援します。

都市農業機能発揮支援

都市農業アドバイザーの派遣

税や相続に関する講習会

都市住民への理解醸成や効果的な情報発信

2. 都市農業共生推進等地域支援事業

① 地域支援型

ア 都市住民と共生する農業経営への支援策の検討や都市農業の機能についての理解醸成、市民農園等の附帯施設の整備や都市農地の周辺環境対策等の取組

イ 都市農業者と都市住民が直接ふれあうマルシェ等の開催による交流促進のための取組

ウ 都市農業の機能である防災機能の維持・強化等の取組等を支援します。

② モデル支援型

国の施策の方向性に沿った取組を、複数の地域が連携して一体的に実施し、当該取組をガイドライン化する等により、各地域への波及させる取り組みを支援します。

都市農業共生推進等地域支援

● 地域支援型

都市住民と共生する農業経営への支援策の検討

都市住民の農作業体験

都市住民との交流促進

都市の農業体験農園

防災機能の維持・強化

マルシェ等の開催

防災機能の維持・強化

防災訓練や防災兼用井戸の整備

● モデル支援型

農村ファンの拡大

防災機能の強化

地域支援型の取組に合わせ、国の施策の方向に沿った取組を実施し、ガイドラン等により全国に波及させる取組を支援。

都市農地貸借法に基づく農地の貸借による次世代の担い手づくり等の取組に対し、加点により優先。

貸借

都市農業者（担い手）

<事業の流れ>

国

→

定額

民間団体、地域協議会、市区町村、J A、NPO法人等

[お問い合わせ先]
農村振興局都市農村計画課（03-3502-5948）

2022(令和4)年度『農』の機能発揮支援アドバイザー派遣事業

都市農業の多様な機能(産直、防災、環境、農業体験、学習、福祉、交流等)を発揮した取組を支援するため、都市農業者や市民等みなさんからのご依頼(申込)により、当センターが都市農業・まちづくり等の専門家を派遣し、勉強会等での説明やアドバイスをいたします。
※派遣総数200箇所を予定(6-9月70箇所、10-12月90箇所、1-3月40箇所)

事業概要および申込方法

申込みできる方 農業者やその関係団体、地域で活動している(またはしようとしている)住民・団体の皆様
※企業、社会福祉法人、NPO、学校、自治体等も含まれます。

派遣回数 3回まで
※複数回の場合はその都度申込みをしてください。

費用 専門家への謝金、旅費を当センターが負担します
※旅費は片道50km以上または1,000円以上の場合
※内容等によっては依頼者に費用の一部を負担していただく場合もあります。
(申込手続きの際にご案内します。)

申込方法 当センターHPにアクセスしていただき、いずれかの方法でお申し込みください。
①入力フォームからお申し込みいただく
②ダウンロードした申込書に必要事項を記入し、EメールかFAXでお申し込みいただく
※申込書受領後、ご依頼内容の確認等のご連絡をいたします。

申込期限 原則として実施日の2週間前まで
※最終受付:2023(令和5)年2月28日

派遣内容 以下のようなテーマについて、ご依頼(申込)内容に合った専門家を派遣し、勉強会等での説明やアドバイスをいたします。※1時間程度または2時間程度

まちづくり	農住調和的まちづくり/新しい都市農地制度/公園と緑
施設利用	市民農園/コミュニティ菜園/登壇/ライフ
教育・福祉	高齢者・生きがいをづくり/障害者福祉等/学校教育等の教育
都市農業	6次産業化/地産地消/新規就農支援/研修型農地教育/入園方式等の農業経営
その他	規制、農業祭等のイベント/その他『農』の機能発揮に関するテーマ

申込み・問合せ先 一般財団法人 都市農地活用支援センター 相談部
http://www.tosinouti.or.jp/shientaisaku/
〒101-0032 東京都千代田区若本町3-9-13 若本町共同ビル4F
TEL:03-5823-4830 / FAX:03-5823-4831 / E-mail:adviser@tosinouti.or.jp

関係協力団体

NPO 全国農業体験農園協会	NPO 江戸東京野菜コンシェルジュ協会	(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
NPO 千葉県市民農園協会	(一社)高齢者住宅財団	首都圏土壌区会の会
NPO 日本都市福祉推進協議会	(一社)日本農地活用協会(ノウフク)	農山漁村イノベーション中央サポートセンター
NPO HUB®(ハブズ)		

都市における「農」の多様な機能を発揮した取組を支援するための 都市農業やまちづくりなどの 専門家を派遣 します!

無料 ※内容により一部費用が生じる場合があります

取組みテーマの例

- 市民農園の設置、コミュニティ菜園の取組み
- 農業体験農園・観光農園の開設、CSAの取組み
- 地域における食育・環境教育
- マルシェや収穫祭などのイベント開催
- 農家と地域産業との連携で地産地消
- 園芸福祉で高齢者の生きがいをづくり
- 障害者就労と農業のマッチングで6次産業化
- 農業と企業等との連携に向けた取組み
- 防災協力農地の導入に向けた取組み
- 新しい都市農業・都市農地制度の勉強会
(都市農業振興計画、生産緑地制度、賃借円滑化法、防災協力農地など)

現地やオンラインでアドバイス!

●本事業における新型コロナウイルス感染症対策について
コロナウイルス感染対策として、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用等、新しい生活様式を遵守すると共に、ZOOM等を用いたオンラインでの派遣も実施します。オンライン実施の場合の報酬や人的コストについては、内容により当センターも実施しますので、ご相談ください。

●取組事例紹介サイト「都市と農の共生」
都市農業が有するさまざまな機能発揮の取組事例をHPにて紹介

申込受付 2023(令和5)年2月28日まで
事業主体 一般財団法人 都市農地活用支援センター
http://www.tosinouti.or.jp/
※本事業は農林水産省「都市農業機能発揮支援事業」により実施しています

農を活かすと、できることがいっぱい!

アドバイスの内容は 多岐にわたります

- 市民農園の設置、コミュニティ菜園の取組み**
①とは
NPOや地域団体等による市民農園の設置、近隣同士の菜園づくりによるコミュニティの活性化
- 農業体験農園・観光農園の開設、CSAの取組み**
①とは
体験農園等の開設・運営方法(年間プログラム・収益計画・入園者の指導法等)、市民と連携したCSAの取組み方
- 地域における食育・環境教育**
①とは
伝統野菜を種から育て、収穫して食べる食育授業
生ごみのたい肥化や堆肥づくり、田んぼや水田でどろんこ体験
- マルシェや収穫祭などのイベント開催**
①とは
地域の行事に合わせてマルシェを開催して地域活性化や交流の場
- 農家と地域産業との連携で地産地消**
①とは
飲食店が地元産野菜を使った料理とトークショー開催
- 園芸福祉で高齢者の生きがいをづくり**
①とは
専用付きのデイサービスやサービス付き高齢者住宅で園芸療法
園椅子でモリスドベッドで野菜づくり
- 障害者就労と農業のマッチングで6次産業化**
①とは
ジャム、ハムやソーセージ、豆腐、ジェラートなど多彩な加工品づくりで地元農家との連携体制構築
- 農業と企業等との連携に向けた取組み**
①とは
農産物、企業等による農地の利活用や農産物の販路開拓
- 防災協力農地の導入に向けた取組み**
①とは
農地での防災訓練や防災協力農地制度の導入等
- 新しい都市農業・都市農地制度の勉強会**
①とは
都市農業・都市農地制度の勉強会、都市農業振興計画や経営モデルの周知、都市農地の賃借制度の活用方法等

一般財団法人 都市農地活用支援センター

東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル4階
TEL. 03-5823-4830 / FAX. 03-5823-4831
E-mail : adviser@tosinouti.or.jp
HP URL : <http://www.tosinouti.or.jp/>



「都市と農の共生」

都市農業が有する様々な機能発揮の取組事例をHPにて紹介
<http://www.tosinouti.or.jp/living/caselist.html>

